

# 連携リーダー

## 【組合の概要】

金田魚介類仲買協同組合は、23年前の昭和59年2月、新たに金田漁業協同組合が養貝場を設置するに際し、それまで個々に取引していた金田地区の魚介類仲買業者が結束し、組合組織として交渉力を高め、組合員企業の経営改善を行うために設立された。以来、組合は、この養貝場から採れるアサリとバカ貝の成員の共同購入、養貝場へ入れる種アサリの共同販売を行っている。

設立以来順調に推移してきた共同購入、共同販売事業であったが、平成元年にアクアラインの建設工事が始まり、影響が懸念された。しかし、その後も順調な水揚げが続いてきたものの、ここ2年は極端に落ち込んでおり、最盛期に成員、稚貝合わせて20万タール（1タール15kg）取引されたものが平成18年度は5万タールと4分の1にまで落ち込んだ。

アサリが日本の食卓に日常的に出回るようになったのは東京オリンピックの数年前からで、それまでカマスや網に入れ運んでいたものが、発泡スチロール容器に海水を入れた状態で運搬されるように

## 金田魚介類仲買協同組合

## 齊藤剛一理事長

◎さいとうこういち 昭和33年中学卒業と同時に祖父の経営する水産卸問屋で修行、昭和55年有限会社与兵衛水産を設立し代表取締役に就任する。昭和59年に発起人代表として金田魚介類仲買協同組合の設立を手がけ、以来専務理事、平成5年代表理事就任。現在に至る。64歳。



### 金田魚介類仲買協同組合

所在地 木更津市瓜934  
代表者 齊藤 剛一  
組合員数 19名 出資金 3620万円  
職員数 1名

## 地域と連携し

## 水産資源と環境保全を考える

なり、砂抜アサリとして商品化されたこと、そして

不漁が繰り返されているのでこれから良くなると予想する。

て高速道路や一般道の整備が進み流通の範囲が広がったことによる。その

【齊藤剛一理事長の横顔】

頃アサリ専門の仲卸業者は随分儲かっていたとの

齊藤理事長は、地元中学を卒業してすぐに祖父が経営する水産卸

ことである。理事長は、

会社で働き始め、昭和55年にはそこを父親の弟（叔父）に譲り、独立して法人化し、現在の有限会社

あり、10年スパンで豊漁

与兵衛水産の代表取締役に就任して27年になる。組合設立に当たっ

ては、金田地区の仲買業者の代表として先頭に立って漁協との折衝にあたり、当組合が一つの仲買業界団体として認知されるよう尽力された。当時は漁協の役員でもあったが当組合側に立った対応を

なるべく金田漁協の役員は辞めて組合運営に専念している。

近年、理事長の会社の事業は、従来の仲卸業はやや縮小気味で、地元地場産品の小売市場である「アクア・わくわく市場」に出店しており、平成11年4月出店当初は1区画であったものが、現在13区画にまで拡張している。

趣味を伺ったところ、若い頃はオートバイや車であったが、現在は庭木いじりとのことで、自宅の庭には黒松を始め多くの植木や草花が植えられており、年中何かしらの花を見る

ことができる。こ

れら植木や草花は殆ど理事長自身の手で手入れされている。

